国土交通省　東北地方整備局
青森河川国道事務所
Aomori office of river & National highway

記者発表
Press Release

記者発表資料

平成３０年　４月１１日
国土交通省青森河川国道事務所

地域の伝統行事の復活をめざし
岩木川下流　ヨシ原の火入れ実験を行います

岩木川下流部（芦野頭首工から十三湖に至る約１１ｋｍの両岸河川敷）には、ヨシ原（約４００ｈａ）が広がっており、貴重な動植物の生息・繁殖地となっています。

しかし、地域が伝統的に実施してきたヨシの刈り取りや火入れが行われなくなり、ヤナギなどの侵入により、環境劣化が進行しており、環境改善と保持が喫緊の課題となっています。

この度、岩木川が改修１００周年となることを契機に、地域の団体や行政機関からなる「岩木川下流ヨシ原の火入れ検討会」を組織し、環境の保全のため、ヨシ原の火入れの復活に向け、下記のとおり現地実験を行うことにしたのでお知らせします。

この火入れは、地域の伝統行事（春の風物詩）の復活としても期待されております。ぜひ見学にお越しください。

また、ボランティアとしての参加も大歓迎です。（事前申し込みが必要）

記

実 施 日 ： 平成 30 年４月 21 日（土）10：00～12：00
第一予備日：４月 22 日（日）、第二予備日：４月 23 日（月）
※天候により実施日が延期になる場合があります（時間は変更無し）
※延期周知は４月 20 日（金）15 時以降に青森河川国道事務所 HP に掲載

場　　所 ： 青森県北津軽郡中泊町若宮地区
岩木川右岸河川敷１．２ｋ～１．６ｋ（駐車場１．２ｋ付近）

内　　容 ： ①開会セレモニー　10：00～10：15
・武田堤防保護組合長あいさつ
・火入れ開始合図
②火入れ行事　　10：15～12：00（予定）
※火入れに要する時間は当日の天候状況等により変わってきます
※火入れや鎮火などの作業のためボランティアを募集します
事前申し込み先　中泊町 環境整備課（申し込み期限 4/17(火)）

発表記者会 ： 青森県政記者会、建設関係専門紙、津軽新報社

問い合わせ先
国土交通省　東北地方整備局　青森河川国道事務所
青森市中央三丁目２０－３８　　電話０１７－７３４－４５２１（代表）
副所長（河川）　　安部（あべ）　剛（つよし）　（内線２０４）
河川管理課長　　工藤（くどう）　尚武（なおたけ）（内線３３１）
青森県中泊町
青森県北津軽郡中泊町大字中里字紅葉坂 209 番地
電話０１７３－５７－２１１１（代表）
環境整備課長　佐藤（さとう）　一広（かずひろ）

岩木川改修１００周年記念行事

地域の伝統行事の復活をめざし
岩木川下流　ヨシ原の火入れ実験開催のお知らせ

岩木川下流のヨシ原への火入れ

岩木川下流のヨシ原は、絶滅危惧種を含む多くの貴重な鳥類が確認され、過去には、地域住民によるヨシの刈り取りや枯れヨシへの火入れが伝統的に行われ、地域との共生により、環境が保全されていました。

しかし、ヨシの刈り取りや火入れが行われなくなり、ヤナギなどの侵入による環境の劣化が進み、環境の改善と保持が喫緊の課題となっています。そのため、今年が岩木川の改修１００周年となることを契機に、火入れの復活に向け検討会を組織し、現地実験を行うものです。



火入れの状況【イメージ】







試験実施日

4月21日（土）　10：00～12：00

悪天候の場合は
第1予備日　4月22日（日）
第2予備日　4月23日（月）
※時間は変わりません

岩木川下流火入れ実験地周辺のみなさまへ
当日および実験後は、風向きや上昇気流により若干、灰や煙が飛散し、ご迷惑をおかけする場合がありますが、火入れ実験の必要性をご理解の上、ご協力いただけますようお願い致します。ぜひ、伝統行事の見学にお越しください。

見学だけでも結構ですが、火入れや鎮火などの作業のためのボランティアも募集します。

ボランティアの連絡先
中泊町　環境整備課
0173-57-2111
※期限　4/17(火)

案内図（火入れ実施日の車両運行経路）

※　当日は、交通誘導員の指示に従ってください。ご協力をお願いいたします。

⟸　運行経路(一方通行)　　■　火入れ実施場所

●　交通誘導員　　■　駐車場

★　仮設トイレ



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイトル)を複製したものである。(承認番号　平29東複、第33号」

【参考資料】

別添1

岩木川下流ヨシ原の火入れ検討会

設立趣意書

岩木川下流部（芦野頭首工から十三湖に至る約１１kmの両岸）には、全面がヨシ原で覆われている河川敷が約４００haに亘って広がっている。そのヨシ原には、絶滅危惧種のオオセッカに加え、オオジュリン、コジュリン等の草原性の希少な鳥類や猛禽類のチュウヒが生息している。オオセッカ（環境省RD絶滅危惧ＩＢ類）の生息・繁殖地は、国内では、当地域を含めて3箇所しかなく、貴重な場所として保全を図っていく必要がある。

このヨシ原においては、古くから屋根葺や簾、漁具など生活用品の素材として利用するため、地域住民によるヨシの刈り取りや枯れヨシなどの火入れが行われてきた。これらの人為的な管理が、ヨシ原の純群落的な植生を生み出し、良質で風光明媚なヨシ原の育成に貢献してきた。

しかし、トタン屋根が登場した頃からヨシの需要量が低下、さらにヨシの刈り取りや枯れヨシなどの火入れも激減し、ヤナギなどの樹木や外来植物等の侵入により環境劣化が進んできており、環境の改善と保持が喫緊の課題となっている。

それを危惧し、「河川生態学術研究会岩木川研究グループ　ヨシ原チーム」の弘前大学東教授や竹内河川環境保全モニターを中心に、当該地域の生態系の保全に向けた研究が進められ、研究成果が蓄積されてきている。

今般、今年が岩木川改修１００周年となることを契機に、良好な環境の保全を図るとともに、地域の伝統行事でもある火入れの復活に向けて検討会を設置することとした。

なお、検討においては、弘前大学東教授と竹内河川環境保全モニターからアドバイスを頂きながら、課題を解決するため試験実施を行っていくものである。

※設立　平成30年2月23日

【参考資料】

別添2

岩木川下流ヨシ原の火入れ検討会＜実施体制＞

【実施主体】

○武田堤防保護組合	組合長	高松　宏
	副組合長	三上　一美
	会計	佐藤　定明
	若宮自治会長	工藤　義秀
	長泥自治会長	坂本　朝彦
	富野自治会長	大川　康悦
	豊島自治会長	田中　秀一
○ヨシ原を営む団体・カヤの火入れ申請者（個人）		上野　千代榮
		鈴木　啓巧

【共催・支援】

○岩木川改修100周年記念事業実行委員会（流域15市町村、国、県） 次年度以降　流域15市町村、河川管理者【代表　青森河川国道事務所】		
○NPO法人　岩木川環境公共ネットワーク協議会	会長	荒谷　政志
○五所川原地区消防事務組合	中里消防署長	荒関　勝幸
○青森河川国道事務所	事務所長	佐近　裕之
	副所長	安部　剛
	調査第一課長	田村　公仁
	河川占用調整課長	大滝　雅之
	河川管理課長	工藤　尚武
	五所川原出張所長	梨子　敏晴
○中泊町	町長	濱舘　豊光
	環境整備課長	佐藤　一広

＜アドバイザー＞

○弘前大学　農学生命科学部　教授	東　信行
○河川環境保全モニター	竹内　健悟

＜事務局＞

□青森河川国道事務所　　五所川原出張所

□中泊町　環境整備課

※平成30年2月23日時点